
くろちゃんありがとう！

翠寿きゆま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くろちゃんありがとう！

【Nコード】

N8167G

【作者名】

翠寿きゆま

【あらすじ】

実話を元にしたお話。物は使い捨て、そんな時代に生まれた若い二人が、車を通して物を大切にすることの大事さその意味と愛着への喜びを体験し、車側から見た二人との絆を、絵本の様な可愛らしいタッチで描いてみました。

ご主人様は、私の事をくろちゃんと呼んでくれています。

14年前、私は、ちよっぴり可愛くてハンサムなご主人様に、新車で購入されました。

ちっちゃな私のボディは、その可愛さに似合わず、とってもスマートで、カッコイイ
走りを見せました。その時、ご主人様は私に言いました。

ご主人様「小さくて可愛い奴だけど、意外といい走りするじゃん。
気に入ったぜ！一目惚れだ！」

私とご主人様は、通勤時も、そして休日の午後も、恋人同士の様に
毎日一緒です。
だから私はとっても幸せです。

ご主人様と出会って、2年の月日が経ちました。

ある日ご主人様に、素敵な彼女が出来ました。何だかちよっぴり妬
けます。

だけれど、週末は3人でドライブ、私はいつしか二人と仲睦まじく
家族の様に解けあっていました。本当に幸せです。

3年の月日が流れました。ご主人様と彼女がご結婚されました。
私も素直に嬉しかったです。いつまでも二人を祝福しようと思いま
す。

4年の月日が流れました。ご主人様の奥様になった彼女が私に兄弟

を運んで

来てくれました。今日から私はお姉ちゃんです。でもちよつとだけ寂しい気持ちになりました……………。何故なのかな……………。

その時は不思議でした。人からは自動車に心があるなんて絶対に悟られないはずなのに、でもね、その時、ご主人様も奥様も二人で私を気に掛けてくれました。

ある雨の日の夫婦の会話……………。

奥様「新しい車が来て、気分は嬉しいはずだけどなんだろう、ちよつぱり

寂しい気持ちがしてしまうんだ。」

ご主人様「うん、俺も同じ事を感じていたんだけど……………。」

奥様「この感覚ってなんだろうね……………。」

そしてしばらくして二人が、同じ会話を始めたの……………。

奥様「あつ、くろちゃんが……………。何だかちよつぱり寂しそうに見えるよ。

気のせいかな……………。」

ご主人様「案外そうじゃないかも、と俺も思ってたんだけど?」

その後、二人が私の傍に来てお話してくれたの……………。

ご主人様と奥様「くろちゃんは、今日からお姉ちゃんになりました。おめでとう。これからもずっと大切に乘るから、私達を安全で快適

に運んでね。

そしてこれからもよろしく頼んだよ。」

5年の月日が流れました。私と妹は仲良く隣同士に並べられました。妹なのに、ちよっぴり私よりもボディが大きいの・・・笑

6年の月日が流れました。交差点で突然、他の車が飛び出してきました。

その車は、ご主人様を乗せた私に激しくぶつかりました。

私は、必死でご主人様を守りました。後数ミリずれていたら、道路脇の溝に

落ちるところだったよ・・・・・・・・。もしも落ちていたら、きっと

ご主人様が

大怪我をしていたと思う・・・・・・・・。ご主人様が無傷で良かった・・・・・・・・。

私のボディの左側は、メチャメチャに壊れてとっても痛かったけれど・・・・・・・・。

ご主人様が無事で本当に良かった。その後ご主人様が、私に新しいドアを

取り付けてくれました。だからもう全然痛くないよっ、ありがとう。

7年の月日が流れました。ご主人様のお友達の話を知っていると少し不安になりました。

友達「もうこの車古いし、買い替えた方が絶対いいよ。」

ご主人様「でも・・・・・・・・今はまだいいよ。」

友達「まあ〜そう言わずに、車のカタログだけでも見に行こうよ。

一緒に付き合うしさ・・・・・・・・。」

ご主人様「うん、そうだね〜じゃ〜見に行ってみるかな〜。」

そう言っでご主人様はお友達と、出掛けちゃいました……………私……………売られちゃうのかな……………。ドキドキ。

しばらくしてご主人様が帰ってきました。ご主人様が奥様とお家の中で

お話をしています。

奥様「くろちゃん私達が、恋人同士の頃からずっと一緒だったし愛着感じるね……………。あなたは尚更だね。私と付き合う前から乗っていたんだもの。」

ご主人様「そうなんだ。俺も……………。」

奥様「以前、言い様のない寂しさを感じた時、くろちゃんに話しかけた後に

不思議だけど、すーっとその寂しさが消えてった事があったよね。私はあれ以来、物にだって心はあるんじゃないかって思う様になっただよね。

最近では物を大事にする習慣なんて、昔に比べると薄れちゃったけれど

今でもそう言う気持ちもあっても、全然いいんじゃないかな〜。」

ご主人「うん、長年共に暮らしてきた愛着は大切にしたいよね。やっぱ俺もそう思うよ。くろちゃんを手放したくないよ。」

そんな話声が家の中から聞こえてきて、私は本当に泣きたいくらいに

幸せだったよ。二人の元で走れて良かった。本当に良かった。

それから・・・・・・・・・・14年目・・・・・・・・・・。

二人をずっと見届けてきた私はこの度、旅立ちの時期を迎えました。

14年目の私は、錆だらけのボディと重くなったハンドルやギアを抱えていた……。これじゃまるでお荷物…………。

でもそんな私を精一杯に二人は、最期まで愛し支えてくれました。

この度、世代交代です。近々、新しい家族が二人の元へとやってきます。

ご主人様も奥様も、私を名残惜しそうに見つめていました。

そんな期待に応えたくて、私は二人へ、今日、動きづらくなっちゃった

ボディを必死で動かし渾身の力を込めて、絶好調の走りを贈りました。

ご主人様は最後まで、新しい車の納車を遅らせて、私との僅かな一時を大事に

してくれるそうです。私もいつか又生まれ変わって、もう一度二人を運びたいよ〜泣。

だけど、本当に本当に幸せでした。二人に出会えて、大切にされて良かった。

だから私がいなくなっても、絶対泣いたりしないで元気でいてね…………。

そして何時までもお幸せに！

私、後少しだけど…………頑張るからね。残り僅かな時間を最高の時間

にするから、ご主人様、そして奥様、一緒に楽しく過ごそうね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167g/>

くろちゃんありがとう！

2010年10月20日00時10分発行